

### 資料3：角田山・多宝山の利活用の歴史

かつての峰岡林業の様子（大澤材木さん所有写真）



大正期の林相コンテストの様子。丁寧な手入れが全国的に有名となり、視察団も訪れた。



馬による木材の運搬の様子。



階段状に耕された植林地。木が小さい間は畑としても利用した。



昭和 30 年代の角田山。戦後の住宅ラッシュにより切る木がなくなった。

## 角田山の歴史

角田山 近代史略歴(出典:関係者ヒアリング, 広報紙より)

|                   |   |   |
|-------------------|---|---|
| 林業全盛期・里山的利用期      | M21   | 田村興治平が木曾を旅し、福井の自然林を人工林として植林を始めた。(峰岡林業の始まり)  |
|                   | 大正期   | 早期伐採の林業地として全国的に有名になる。視察や品評会も頻繁に行なわれる。   |
|                   | 戦前  | 角田山山頂は、観音堂が祀られ、多くの信仰者が登っていた。(弥彦山塊一体は修験の場であった)   |
|                   | S25   | 佐渡弥彦国定公園に指定される。   |
|                   | S27.7   | 佐渡弥彦国定公園として角田山も指定される。   |
|                   | ~30頃  | 戦後の住宅復興の影響で、林業が盛んになる。また、米の高騰により、農家が潤い、農家住宅建築の需要も伸びる。  |
|                   | ~30頃  | 需要増により、戦中の人手不足で育成できなかったため材料不足になる  |
|                   | S30   | 角田村合併   |
|                   | S33   | 新潟カントリークラブ(ゴルフ場)ができる  |
|                   | ~40頃  | 最盛期には、角田山の95%は杉林となった。   |
|                   | ~S40頃   | 伐採後の山地は階段状に耕作され、緑林までの間スイカ・菜種・サツマイモなどの耕作地に利用された。   |
|                   | ~S40頃   | 生産されていたのは主に杉・松。松は梁材として出荷された。  |
|                   | ~S40頃   | 山林の管理は、地元集落に無償で委託。枝打ちなどを行なう代わりに燃料として回収。市場などに売り売いた。  |
|                   | S40頃  | 安価な外材が入り出したため、林業が衰退。S43頃には植林をやめる。   |
| S40頃~             | 植林をやめた土地から雑木が芽吹く。   |   |
| S42               | パイロット事業の導入。角田山麓は柿を選択。(同時期に事業導入した弥彦はブドウを選択)                            |   |
| 登山的利用・ボランティア活動全盛期 | S40頃  | スカイライン工事に反対し当時の巻町長が山頂を取得  |
|                   | S44   | 「稲島の杉」「稲島の椿谷自然林」が町指定文化財に指定される。  |
|                   | S45   | 三望平に桜(そめいよしの)200本植栽, ツツジ100本植栽  |
|                   | S45   | 峰岡中学校が野鳥の巣箱11個を取り付ける。   |
|                   | S45   | 五ヶ峠駐車場できる   |
|                   | S46   | 山頂にりんどう1200本植える   |
|                   | S46   | 稲島地区の方々を中心なり、稲島コースの山頂手前に観音堂を建設。(宗)向陽道林を組織し管理に当たる。同じ年、巻ハイキングクラブが山頂に健養亭(三角小屋)を建設し今日まで管理運営に当たっている。 |
|                   | S46   | 観音堂設置に伴い「角田山のためになることをしよう」と「角田山友の会」が発足。稲島集落や周辺市町村から会員が集まる。                                       |
|                   | S47   | 町双書「角田山のキノコ」発行  |
|                   | S47   | 巻町・潟東村教育委員会が冊子「角田山塊の生物」を発行  |
|                   | S48   | 第1回ちようちん登山, 参加者250人, 花火16発  |
|                   | S48   | 稲島コース階段・案内標識20基, 五ヶ峠コースあづま屋新設   |
|                   | S48   | 角田山塊生物調査-49年調査報告書作成   |
|                   | S50   | シーサイドライン間瀬~角田間開通  |
|                   | S50頃?   | 稲島集落や角田山友の会、観音堂協賛会などが所有者である町長の了解を得て、山頂のボランティア整備を始める。  |
|                   | S53   | 教育委員会で巻町双書「角田山の博物誌」発行   |
|                   | S53   | 灯台コース登山道整備(県と共同)  |
|                   | S55   | 城山野球場オープン   |
|                   | S60   | 稲島コース新名所「追慕の碑」完成  |
|                   | S60   | 山谷古墳町文化財指定  |
|                   | S63   | 稲島登山口駐車場整備  |
|                   | H元年   | 西蒲地区理科教育センターが冊子「角田山の植物」を発行  |
|                   | H元年   | 福井地内温泉掘削事業, 稲島登山口の駐車場造成事業   |
|                   | H2  | 平成福寿観音完成  |
|                   | H2  | 雪割草等育成事業 種・株募集 4年後移植  |
|                   | H3  | 山頂寄席を開催   |
|                   | H4  | じょんのび館仮オープン   |
|                   | H5頃   | 県OBの呼びかけにより、「角田山花の会」が発足。山頂のノナショウブの苗育成、山頂へ植栽を行なう。  |
|                   | H5  | 「カーブドッチ」ワイナリー完成   |
|                   | H6  | 角田山自然館オープン, 五福トンネル開通  |
|                   | H6  | 巻町が「雪割草保護条例」を制定   |
|                   | H6~   | 「角田山花の会」が雪割草の植栽を始める。(五ヶ峠, 福井の2箇所)   |
| H7                | 角田山ネットワークが山頂に木陰を創出するため、イタヤカエデなどを植栽                                    |   |
| H7                | ホテルの幼虫6000匹放流   |   |
| H8                | 農村環境改善センター完成  |   |
| H13               | 巻町自然環境保全条例を制定   |   |
| H14               | 角田山総合利用計画策定基礎調査   |   |
| H14               | 森林ボランティアが、福井地区の林地を借り、管理を始める   |   |
| H14               | 巻漁港開港,  |   |
| H15               | バイオトイレ完成  |   |
| H16               | 県の先導により、「角田山自然まもり人」発足。様々な関連団体を取りまとめることを目的としてつくられた。角田山パンフ「角田山自然まもり人」発行 |   |
| H16               | 「角田山まもり人の会」が、県の委託を受け、登山道調査を行う。  |   |
| H18               | 角田山整備情報交換会の開催   |   |
| H19               | 稲島コース観音堂前のひばの木が枯れたことで、新潟日報が「角田山が危ない」と報道                               |   |
| H20               | 県による角田山登山道整備計画が始まる  |   |
| H20               | 角田山・多宝山保全活用基本計画着手   |   |

## 多宝山の歴史

多宝山 近代史略歴(出典:関係者ヒアリングおよび「多宝山の標高 周辺の自然と歴史・文化」)

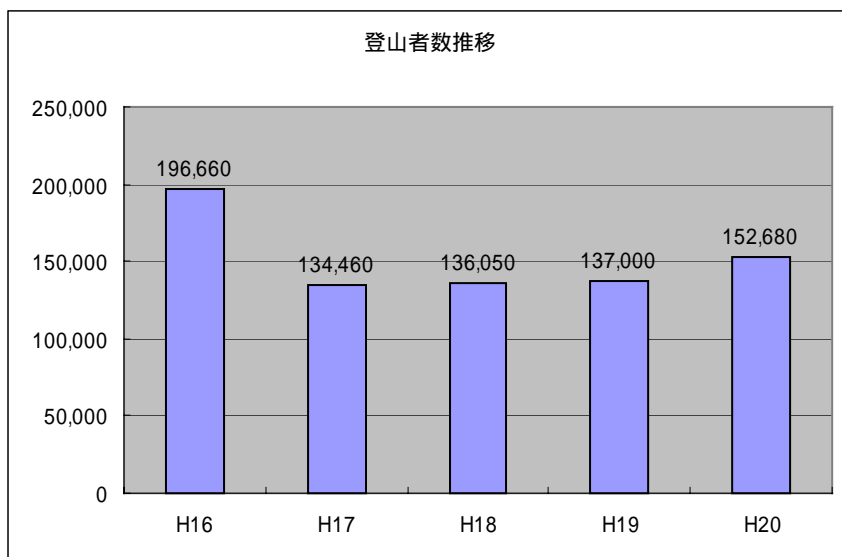
|            |       |   |
|------------|-------|---|
| 銅山および石材生産期 | 元禄14  | 間瀬にて、幕府の鉱山開発奨励により銅採掘が始まるが、採算が合わずに採掘中止となる。                     |
|            | ～明治   | 様々な事業家が銅掘りを進めたが、採算合わずに失敗に終わる。                                 |
|            | 明治    | 間瀬の凝灰角礫岩の加工・出荷を始める。加工しやすく火に強いため、カマドや蔵に用いられた。新潟市税関の倉庫の壁にも使われた。 |
|            | 大正    | 白勢春三之が鉱山主となり、佐渡金山の優秀な技師により鉱脈を発見。月30トン(最盛期には月60トン)の算出に成功。      |
|            | 明治～大正 | 間瀬の銅山は非常に黄銅鉱で純度が高かった。   |
|            | 明治～大正 | 全盛期は、採掘した銅が燕市に出荷され、燕の銅加工産業の基盤となった。                            |
|            | 大正    | 最盛期には、鉱山主の名を取り、「白勢銅山」と呼ばれた。                                   |
|            | 大正9年  | 「白勢銅山」は掘り尽くして閉山。  |
|            | 大正末   | 間瀬の反対側である石瀬地区でも銅採掘開始。規模が小さく、あまり振るわなかった。                       |
|            | 大正末   | 銅採掘が衰退する中、新しい産業として土谷ヶ沢の緑色凝灰岩の加工が行なわれた。縁側の土止め石、石蔵、石堀などに利用された。  |
| 林業期        | 大正    | 石瀬地区を中心に林業が盛んになる。石瀬・岩室は目が細かく、太さが一定で質が高かった。「西山杉」と呼ばれていた。       |
|            | ～戦後?  | 石瀬を中心に林業、製材に関わる職人が大勢存在した。                                     |
|            | ～S50  | 西山杉の生産は昭和50年頃まで続けられた。   |
| 整備開発期      | S25   | 佐渡弥彦国定公園として多宝山も指定される。   |
|            | S37   | 山頂に気象観測レーダー設置。  |
|            | S39   | 新潟国体の登山コースとして多宝山の林道を整備。                                       |
|            | S42   | 間瀬に東大地震研究所弥彦地殻変動観測所完成   |
|            | S44   | 弥彦スカイライン開通  |
|            | S45   | 山麓に老人憩いの家静閑荘ができる  |
|            | s 4 9 | シーサイドライン野積～間瀬間開通  |
| 観光活用期      | H7    | 健康増進センター「よりのなれ」がオープン  |
|            | H13頃～ | 弘川沿いや林道に「桜」を植樹  |
|            | H15   | 多宝山登山道の整備により、角田山～国上山までの縦走が可能に。                                |
|            | H18   | 岡崎氏「多宝山の標高 周辺の自然と歴史・文化」を執筆                                    |
|            | H19   | 区づくり事業の一環で多宝山のPRと登山道整備  |
|            | H20   | 角田山・多宝山保全活用基本計画着手   |

#### 資料4：現在の登山利用状況（角田山）

）以下のデータは山頂に設置してある記載所の記帳者数をもとに算出している。

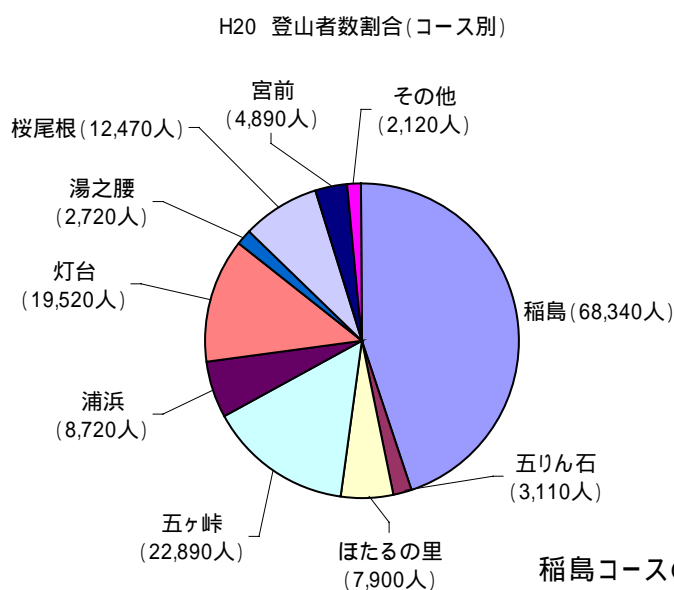
なお、算出法は、利用実態調査の結果、一日の登山者数と記帳者数の割合が 10：1 であることから、記帳者数×10＝登山者数としている。

年間入込み数の推移（過去5年、出典：新潟県観光動態調査）



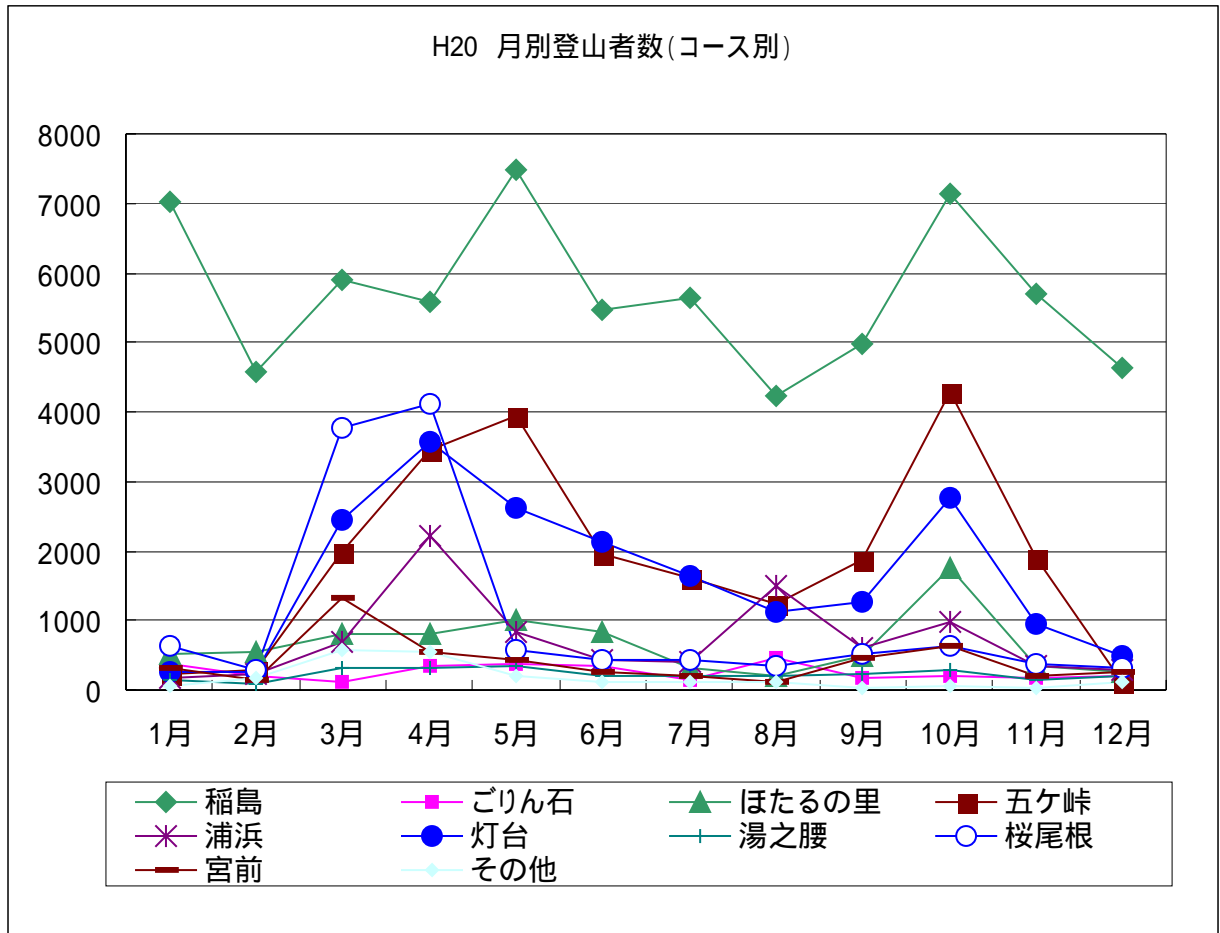
H17 年まで減少傾向であったが、その後、再び増加傾向がみられる。

コース別の入込み数（H20 年、新潟市調べ）



稲島コースの登山者が圧倒的に多い。ついで五ヶ峠コース、灯台コース、桜尾根コースの順となっている。  
 （「その他」コースの内訳は不明）

コース別、月別の登山者数（H20、新潟市調べ）



- ・ 稲島 C : 登山コースの中で最も登山者数が多く、年間を通じてダントツである。ピークは、10-11月、1月、3月にみられる。
- ・ 五ヶ峠 C : 月別の登山者数をみると、登山者のピークは稲島 C と同様に 10-11月が多い。
- ・ 福井 C : 月別の登山者数をみると、増減は緩やかである。10月、3-5月は他の月に比べやや多い。
- ・ 五ヶ峠 C : 月別の登山者数をみると、10月、3-5月にピークがみられる。
- ・ 浦浜 C : 8月、3-4月にピークがみられる。
- ・ 灯台 C : 9-10月、3月にピークがみられる。
- ・ 湯之腰 C : 10月にピークがみられる。
- ・ 桜尾根 C : 3-4月にピークがみられ、この時期は、他の月に比べても登山者数が多い。
- ・ 宮前 C : 3月に最も多く、ついで 10月に多い。

### 登山者の意識など（抜粋）

以下に、平成 15 年 4 月に県巻地域振興事務所が実施した「角田山利用状況調査」と、平成 16 年 12 月に実施した「学校行事としての角田山登山に関するアンケート調査結果」をもとに、以下に登山者の意識について整理した。

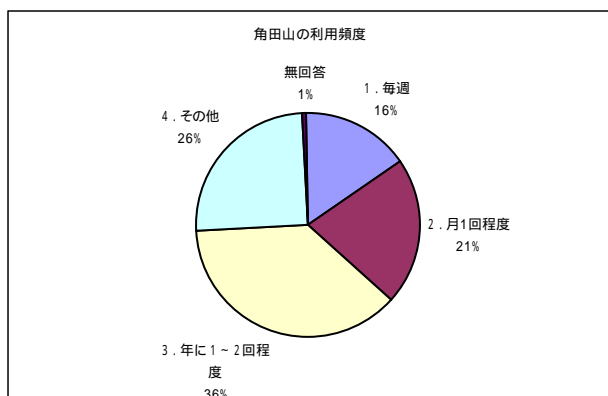
#### 「角田山利用状況調査」

##### 角田山の利用に関するアンケート

- 実施時期 平成 15 年 4 月 29 日
- 対象 角田山登山会の参加者、およびフリーの登山者（有効回答 191 人）

#### C.角田山をどの程度利用していますか

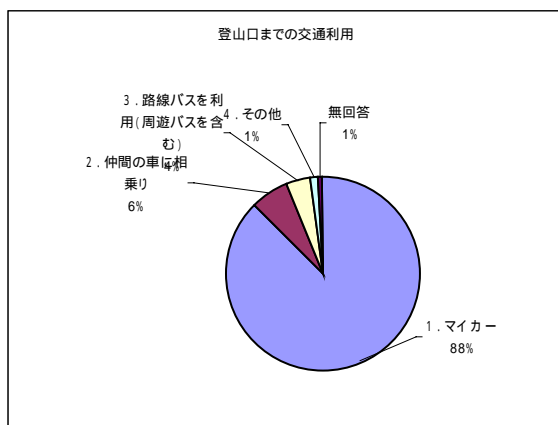
| 1. 毎週 | 2. 月1回程度 | 3. 年に1～2回程度 | 4. その他 | 無回答  | 計      |
|-------|----------|-------------|--------|------|--------|
| 30    | 40       | 71          | 49     | 1    | 191    |
| 15.7% | 20.9%    | 37.2%       | 25.7%  | 0.5% | 100.0% |



月に 1 回以上登る人が累計で約 35%。年に 1-2 回登る人が 37%となっている。  
都市近郊という利用しやすい立地条件によるものと思われる。

#### H.登山口までの交通は何を利用していますか

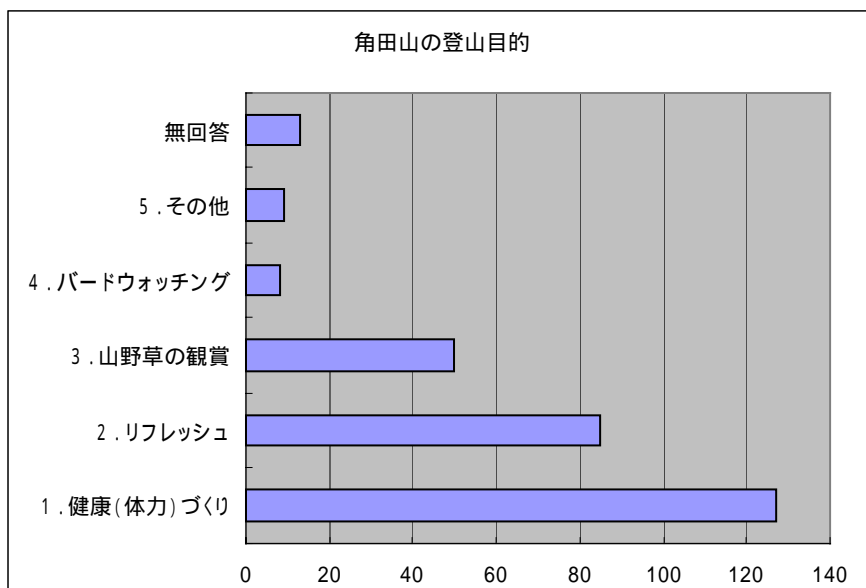
| 1. マイカー | 2. 仲間の車互相乗り | 3. 路線バス(周遊バスを含む) | 4. その他 | 無回答  | 計      |
|---------|-------------|------------------|--------|------|--------|
| 165     | 12          | 8                | 2.6    | 1    | 188.6  |
| 87.5%   | 6.4%        | 4.2%             | 1.4%   | 0.5% | 100.0% |



一方で、利用交通の面では、圧倒的に「マイカー」が多く、交通手段の不便さは伺える。  
この実態は、どのコースも登山者数・下山者数で大きく変化がない（同じコースを上り下りする人が多い）ことにも影響していると思われる。

J.角田山登山の目的はなんですか(複数回答)

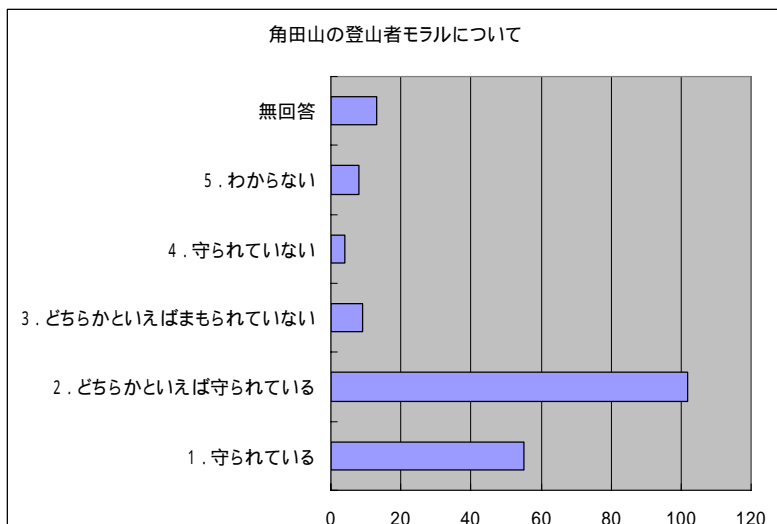
|             | 回答数 | %      |
|-------------|-----|--------|
| 1.健康(体力)づくり | 127 | 66.5%  |
| 2.リフレッシュ    | 85  | 44.5%  |
| 3.山野草の観賞    | 50  | 26.2%  |
| 4.バードウォッチング | 8   | 4.2%   |
| 5.その他       | 9   | 4.7%   |
| 無回答         | 13  | 6.8%   |
| 回答者数        | 191 | 100.0% |



先の選択枝の中では、「健康(体力)づくり」「リフレッシュ」「山野草の観賞」の順に多い。角田山が、心身の増進に寄与していることが伺える。

K.登山者のモラルは守られていると思いますか

|                    | 回答数 | %      |
|--------------------|-----|--------|
| 1.守られている           | 55  | 28.8%  |
| 2.どちらかといえば守られている   | 102 | 53.4%  |
| 3.どちらかといえばまもられていない | 9   | 4.7%   |
| 4.守られていない          | 4   | 2.1%   |
| 5.わからない            | 8   | 4.2%   |
| 無回答                | 13  | 6.8%   |
| 合計                 | 191 | 100.0% |

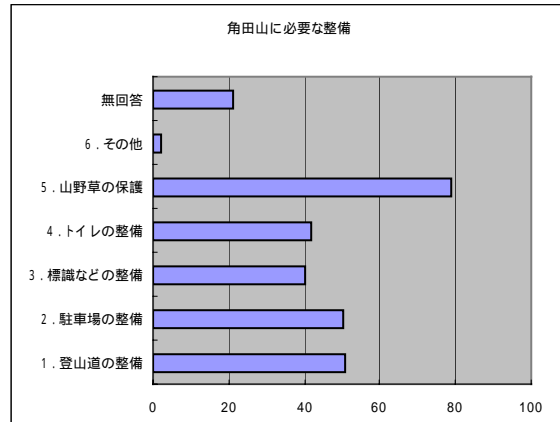


「守られている」「どちらかといえば守られている」を合わせると約半数になる。ヒアリングの結果と同様、登山者のマナーは比較的良いとみられる。

P.角田山の環境整備に必要な整備や対策を挙げて下さい。(複数回答)

|            | 回答数 | %      |
|------------|-----|--------|
| 1. 登山道の整備  | 51  | 26.7%  |
| 2. 駐車場の整備  | 50  | 26.2%  |
| 3. 標識などの整備 | 40  | 20.9%  |
| 4. トイレの整備  | 42  | 22.0%  |
| 5. 山野草の保護  | 79  | 41.4%  |
| 6. その他     | 2   | 1.0%   |
| 無回答        | 21  | 11.0%  |
| 計          | 191 | 100.0% |

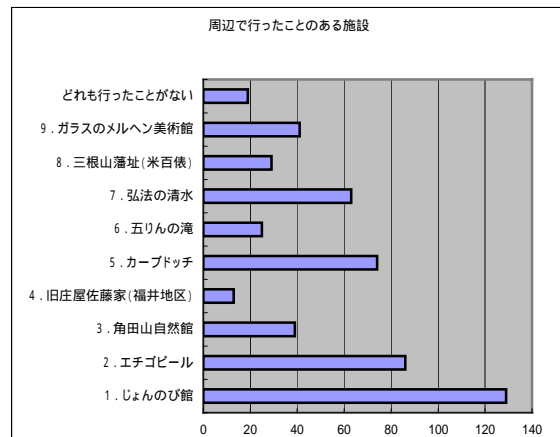
「山野草の保護」が最も高い。その他の整備項目は、ほぼ一律である。



Q.角田山周辺の施設について、つぎの施設に行ったことがありますか。(複数回答)

|                 | 回答数 | %      |
|-----------------|-----|--------|
| 1. じよんのび館       | 129 | 74.1%  |
| 2. エチゴビール       | 86  | 49.4%  |
| 3. 角田山自然館       | 39  | 22.4%  |
| 4. 旧庄屋佐藤家(福井地区) | 13  | 7.5%   |
| 5. カーブドッチ       | 74  | 42.5%  |
| 6. 五りんの滝        | 25  | 14.4%  |
| 7. 弘法の清水        | 63  | 36.2%  |
| 8. 三根山瀧址(米百俵)   | 29  | 16.7%  |
| 9. ガラスのメルヘン美術館  | 41  | 23.6%  |
| どれも行ったことがない     | 19  | 10.9%  |
| 回答者数            | 174 | 100.0% |
| 無回答             | 17  |        |

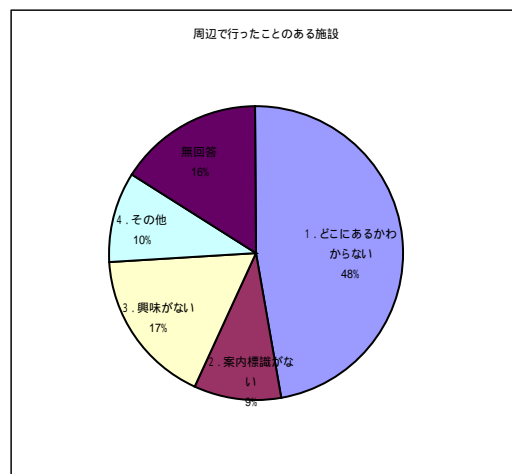
「じよんのび館」「エチゴビール」「カーブドッチ」など、一般的な余暇施設の利用が多い。



R.上記施設で行ったことのない理由

|                | 回答数 | %      |
|----------------|-----|--------|
| 1. どこにあるかわからない | 90  | 47.1%  |
| 2. 案内標識がない     | 18  | 9.4%   |
| 3. 興味が無い       | 33  | 17.3%  |
| 4. その他         | 19  | 9.9%   |
| 無回答            | 31  | 16.2%  |
| 計              | 191 | 100.0% |

「どこにあるかわからない」が約半数を占める。情報発信の充実、今後の観光連携の課題といえる。





## 環境学習に関する学校アンケート

■ 実施時期 平成 15 年 2 月～3 月

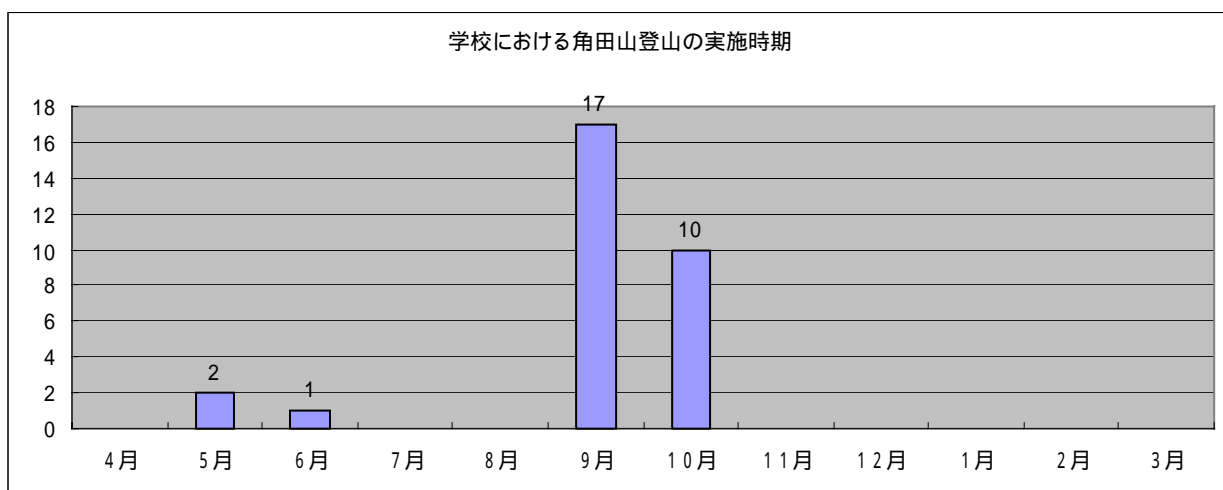
■ 対象 下記地域の市町村立小中学校と養護学校

新潟市、三条市、加茂市、白根市、燕市、岩室村、弥彦村、分水町、吉田町、巻町、西川町、味方村、潟東村、月潟村、中之口村、小須戸町、亀田町、横越町、田上町、栄町、中之島町、寺泊町、越路町（計 141 校）

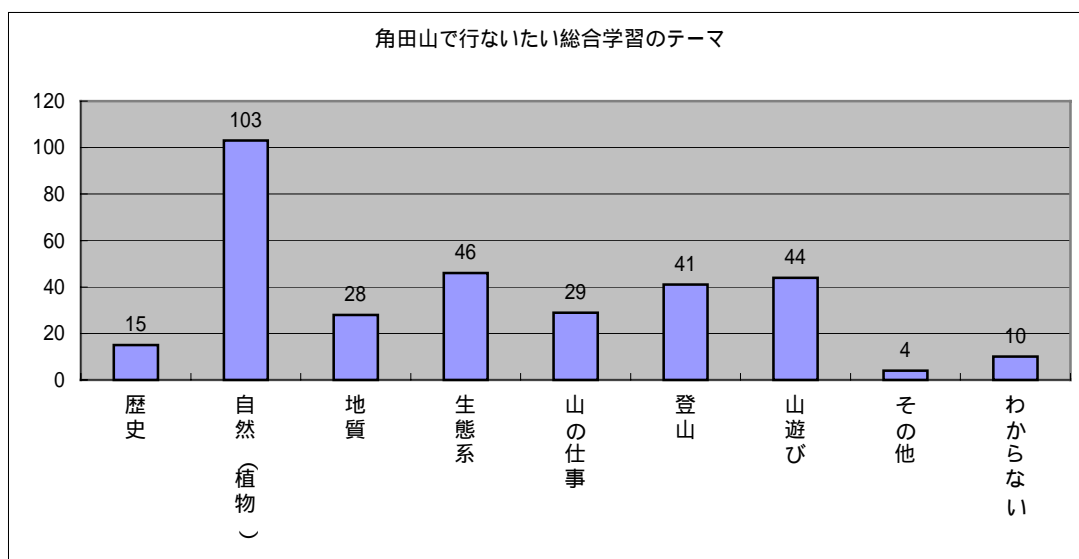
1. 学校で登山をしているか？

|      | はい  |       | いいえ | 無回答 | 学校数 |
|------|-----|-------|-----|-----|-----|
|      | 角田山 | 角田山以外 |     |     |     |
| 小学校  | 30  | 22    | 48  |     | 100 |
| 中学校  |     | 4     | 36  |     | 40  |
| 養護学校 |     |       | 1   |     | 1   |
| 計    | 30  | 26    | 85  | 0   | 141 |

2. 登山の実施時期



3. 角田山で行ないたい総合学習



### 学校行事としての角田山登山に関するアンケート

- 実施時期 平成 16 年 12 月
- 対象 前頁のアンケートにて「角田山登山を行なっている」と回答した 28 校の小学校

#### 1. 登山のときに「登山教室」のようなことをしているか？

|         |    |
|---------|----|
| 行なっている  | 15 |
| 行なっていない | 3  |
| 無回答     | 7  |
| 計       | 25 |

#### 2. 仮に現地案内ボランティアがいて、登山教室をしてくれる場合、希望しますか？

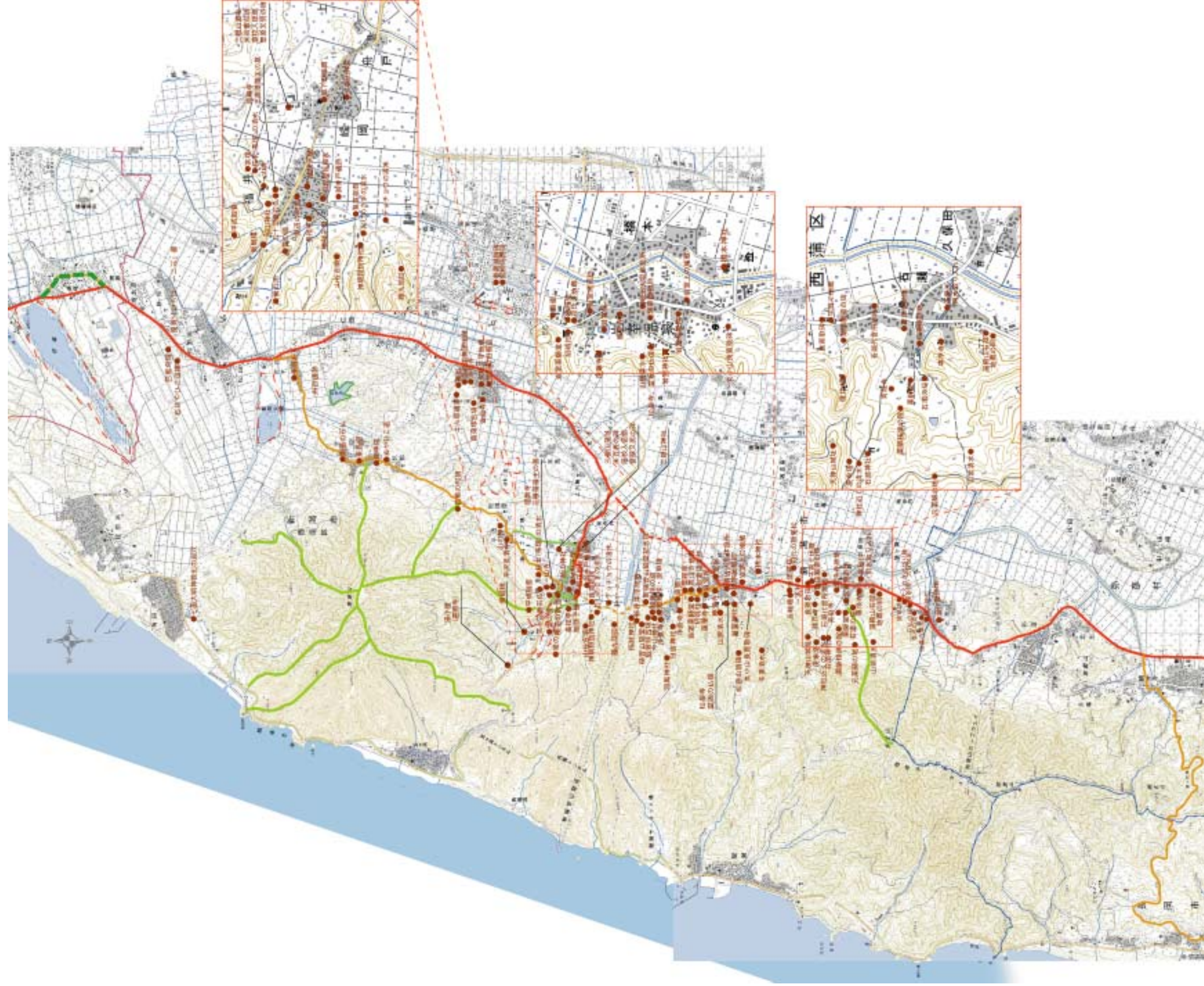
|       |    |
|-------|----|
| 希望する  | 9  |
| 希望しない | 8  |
| 条件次第  | 1  |
| 無回答   | 7  |
| 計     | 25 |

- ・ 周辺市町村で、角田山で登山を行なう小学校は、28 校であった。（中学校は 0 校）
- ・ 実施時期は、春か秋。秋が圧倒的に多い。これは遠足など学校行事のスケジュールに合わせたものと思われる。
- ・ 角田山で実施したい、総合学習のテーマは、「自然（植物）」「生態系」が最も多い。ついで「登山」「山遊び」「山の仕事」となっている。
- ・ 角田山登山を行なう学校のうち、「登山教室」を実施している学校は 15 校で、約 60%。
- ・ 現地案内ボランティアを希望する学校は、約 40%である。

角田山・多宝山周辺の自然資源



角田山・多宝山周辺の歴史資源



角田山・多宝山周辺の観光・産業施設

